

# 2025年度（2026年3月期） 第2四半期決算説明会

（2025/4/1～2025/9/30）

※この資料に記載されている業績予想等の将来に関する予測は、当社経営陣が現時点で入手可能な情報に基づき、判断したものです。  
将来に関する予想には様々な潜在的リスクや不確定要素が内在されており、実際の業績は種々の要素によりこれらの将来予想とは異なる場合があります。  
従いまして、この資料にある将来に関する予想に全面的に依存して投資等の判断を行うことはお差し控えてください。

# 2025年度第2四半期実績及び 2025年度通期見通しについて

代表取締役社長 鷹野 雅央

# 事業セグメントの紹介

事業セグメント	製品分類	事業の内容	主要製品
住生活関連機器	オフィス用家具 福祉・医療施設用椅子 臨床検査薬	オフィス用椅子等のオフィス什器の製造販売 健康福祉関連機器の製造販売 アレルギー検査システムの製造販売	<div> <div>オフィス用椅子</div>  </div> <div> <div>医療施設用椅子</div>  </div> <div> <div>アレルギー検査装置</div>  </div>
検査計測機器	検査計測装置	半導体・フィルム・FPD*向け画像処理検査装置の製造販売、画像処理計測装置の製造販売 *FPD（フラット・パネル・ディスプレイ）	<div> <div>半導体WMシリーズ</div>  </div> <div> <div>フィルム外観検査装置</div>  </div> <div> <div>FPDムラ検査装置</div>  </div>
産業機器	ユニット製品 産業機器	薄板ばね、線ばね、渦巻ばね等の製造販売 電磁アクチュエータの製造販売	<div> <div>渦巻ばね</div>  </div> <div> <div>電磁アクチュエータ</div>  </div>
エクステリア	エクステリア製品	オーニング、パラソル、跳ね上げ式門扉、その他ガーデンエクステリア製品の製造販売	<div> <div>オーニング</div>  </div> <div> <div>パラソル</div>  </div>
機械・工具	工具機械装置等	工具機械装置・外構資材等の仕入販売 連結子会社である株式会社ニッコーの事業	

# 2025年度第2四半期決算及び2025年度通期予想ガイダンス

(単位：百万円)

	2024年度 上期実績	2025年度 上期実績	対前期比
売上高	9,661	10,713	1,052
営業利益	△398	92	—
経常利益	△381	173	—
親会社株主に帰属する 中間(当期)純利益	△106	124	—
1株当たり配当金	—	—	—

## ● 上期実績（対前期比）

売上は検査計測機器、住生活関連機器が増収。  
利益面では、増収に伴う粗利益額の増加等により増益となった。

	2024年度 通期実績	2025年度 通期予想	対前期比
	23,969	25,000	1,030
	451	750	298
	528	850	321
	520	600	△79
	20円00銭	20円00銭	—

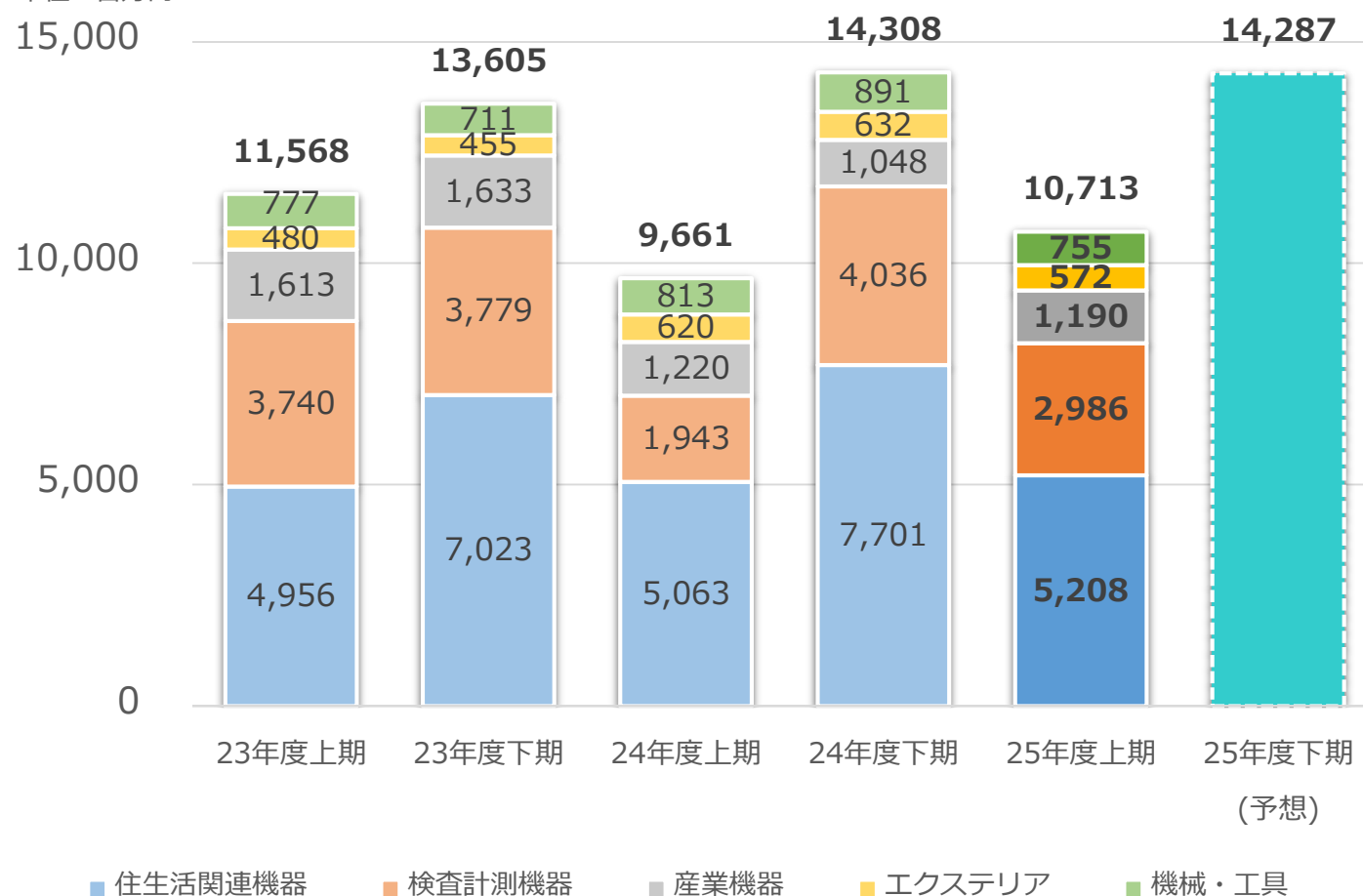
## ● 通期予想（対前期比）

2025年度上期増収増益をベースに下期は住生活関連機器  
及び機械・工具が堅調に推移する見通し。  
通期予想は対前期比で増収増益。

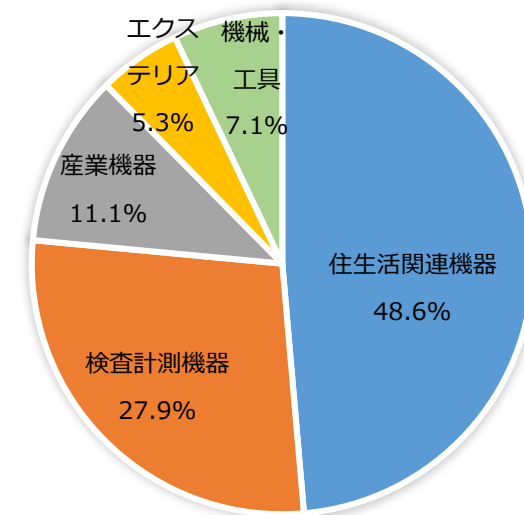
# 連結セグメント別売上高の推移

セグメント別売上高推移

単位：百万円



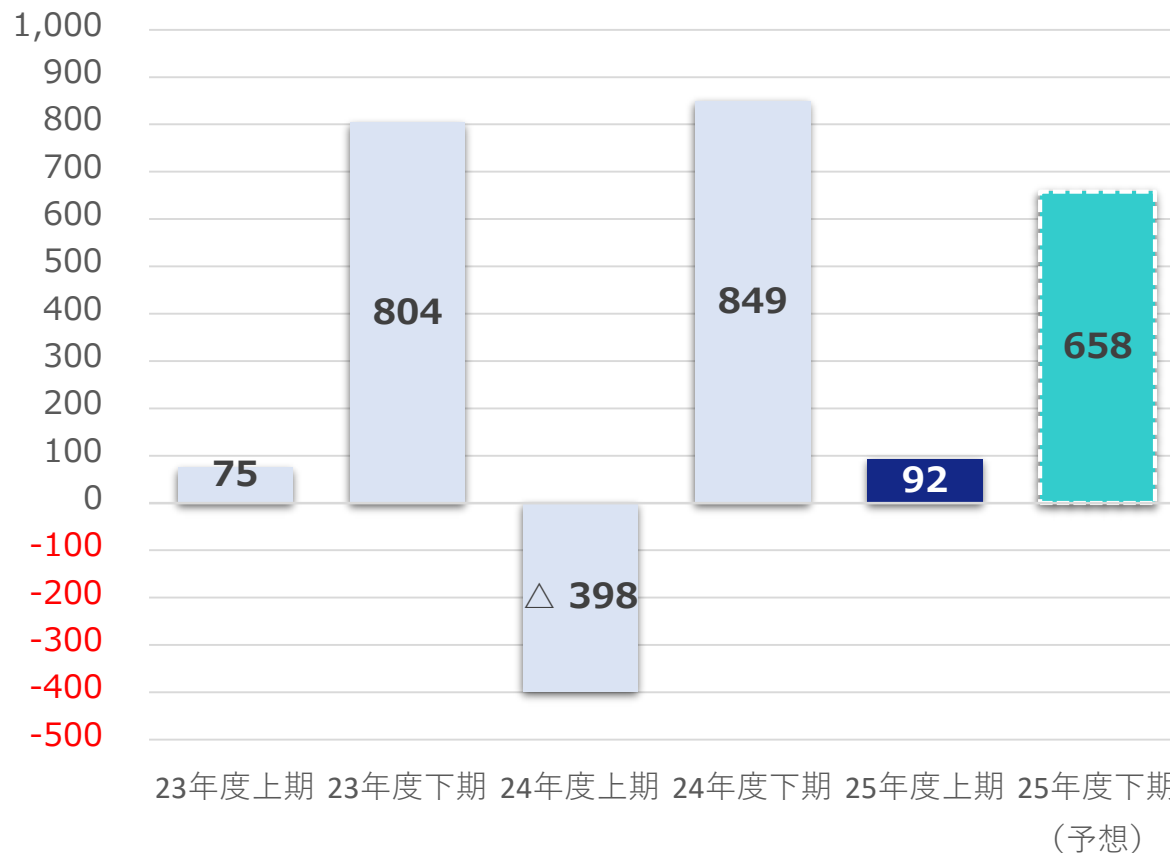
2025年度上期 連結売上高構成比



# 連結セグメント別利益の推移

単位：百万円

セグメント別利益推移



【連結セグメント別利益 内訳】

(単位：百万円)




	2023年度		2024年度		2025年度	
	上期実績	下期実績	上期実績	下期実績	上期実績	下期予想
住生活関連機器	△299	252	△152	625	30	－
検査計測機器	14	251	△295	356	123	－
産業機器	303	273	△52	△205	△104	－
エクステリア	15	△21	59	28	15	－
機械・工具	26	50	53	45	23	－
連結調整	16	△1	△11	0	5	－
合計(営業利益)	75	804	△398	849	92	658

## 連結セグメント別売上高（住生活関連機器）

### 住生活関連機器 売上高（百万円）

	2024年度 上期	2025年度 上期	増減率 (%)	対前年比コメント	下期の取組み
連結セグメント売上高	5,063	5,208	2.9%	オフィス家具製品の販売増加等により対前年比で増収。	需要期対応に向け調達から生産調整、販促活動の強化など。

【内訳】



タカノ_ファニチャー	前年同期比 増収		チェアについては、移転拡張ならびにリニューアル中心に堅調に推移。 ブース系商材は競合激化。	需要期対応に向け調達から生産調整。 次年度新製品上市。
タカノ_ヘルスケア	前年同期比 減収		面圧センサー売上減の影響で対前年比マイナス。	内視鏡検査台コンバーES、車いすクッションMOLAを中心に販売拡大へ。
タカノ_メディカル	前年同期比 増収		2024年度Q4以降、装置成約数が伸長し、試薬の販売量が増加。2025年度は当初計画より若干下回るも、協業先との取り組みあり、成約数増加。	協業先と地方代理店へのSiLIS勉強会、学会出展による販促活動を進め、成約件数増加を狙う。医療機関へ検査訴求ポスターを提供し、試薬消費を促す。
その他 (タカノ_その他・子会社)	前年同期比 減収		—	—

## 連結セグメント別売上高（検査計測機器）

検査計測機器 売上高 （百万円）

	2024年度 上期	2025年度 上期	増減率 (%)	対前年比コメント	下期の取組み
連結セグメント売上高	1,943	2,986	53.7%	フィルム向け検査装置及び半導体・電子デバイス向け検査装置等の販売増加により増収。	

【内訳】

タカノ_検査計測	前年同期比 増収		※画像計測部門パートでご説明	
その他 (タカノ機械・台湾鷹野)	前年同期比 増収		—	—





# 連結セグメント別売上高（産業機器・その他）

## 産業機器 売上高（百万円）

	2024年度 上期	2025年度 上期	増減率 (%)	対前年比コメント	下期の取組み
連結セグメント売上高	1,220	1,190	△2.4%	半導体関連向け製品の販売減少により、対前年比で減収。	比例電磁弁の国内強化と海外展開。 シャッターソレノイド販路拡大。

【内訳】

タカノ_産業機器	前年同期比 減収		織機・医療向け回復も、半導体向けが低調に推移。	比例電磁弁の国内強化と海外展開。 シャッターソレノイド販路拡大。
その他 (香港鷹野・鷹野電子(深圳)・ Takano of America)	前年同期比 増収		—	—

## その他 セグメント売上高（百万円）

	2024年度 上期	2025年度 上期	増減率 (%)	対前年比コメント	下期の取組み
エクステリア ※2	620	572	△7.7%	オーニングの大口案件の販売減少等により対前年比で減収。	4Q拡販テーマ実現に向け、営業活動に注力する。
機械・工具 ※2	813	755	△7.2%	大型機械の受注が好調に推移し、子会社の個別売上高は増収となったが、連結売上高は前年比で減収。	顧客ニーズが高まっている自動化・省力化のソリューション提案を一層強化する。

## 受注・受注残高の状況

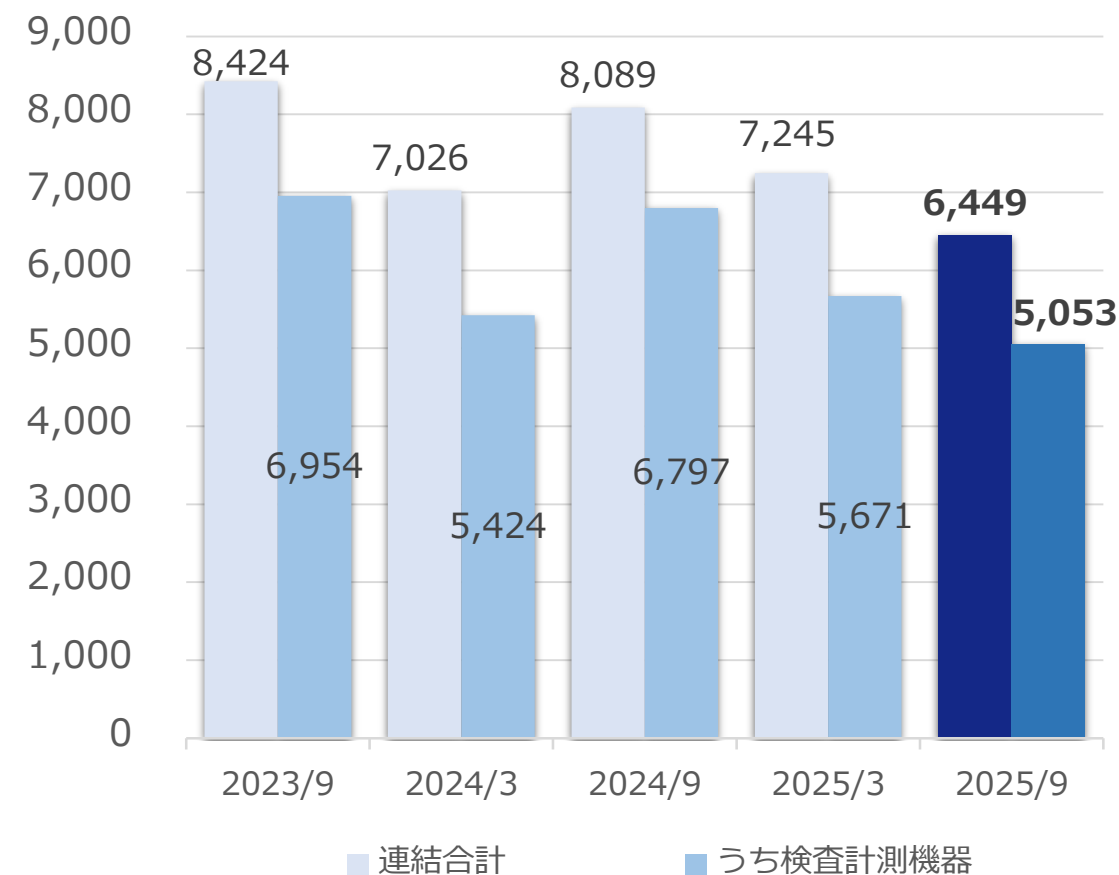
### 受注高推移（半期ベース）

単位：百万円



### 受注残高推移(半期ベース)

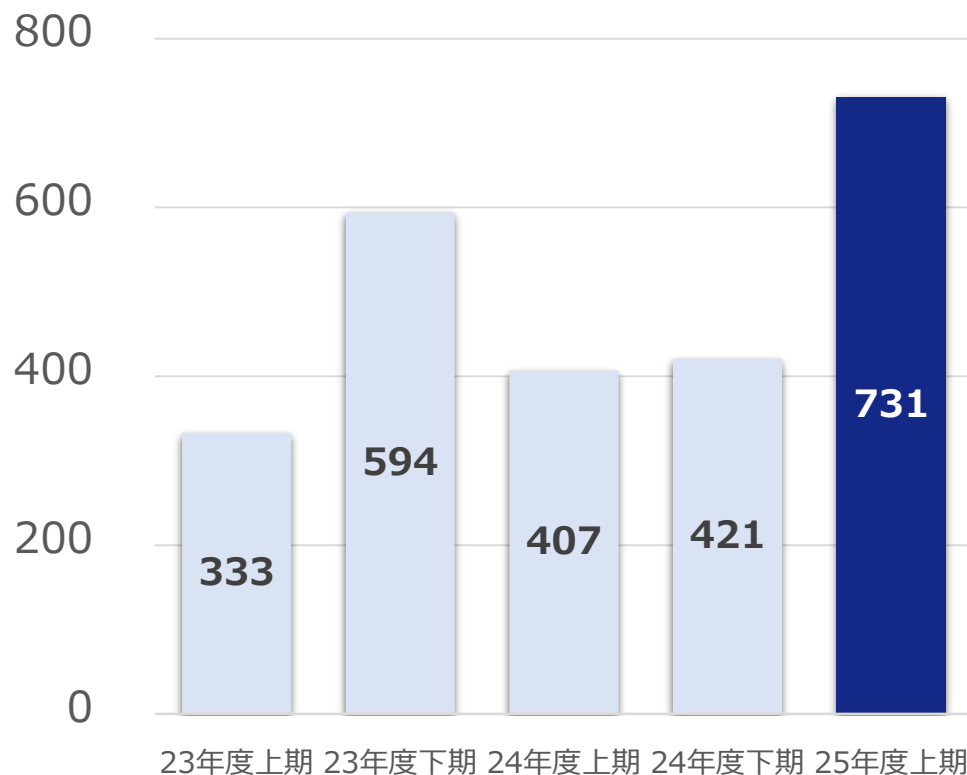
単位：百万円



# 設備投資の状況

設備投資額推移

単位：百万円



## ● 2025年度上期の主な設備投資の内容

### ■ 住生活関連機器

- ・ 太陽光発電設備
- ・ 工場受変電設備
- ・ 自動分析装置

### ■ 検査計測機器

- ・ 電話設備更新

### ■ エクステリア

- ・ 太陽光発電設備

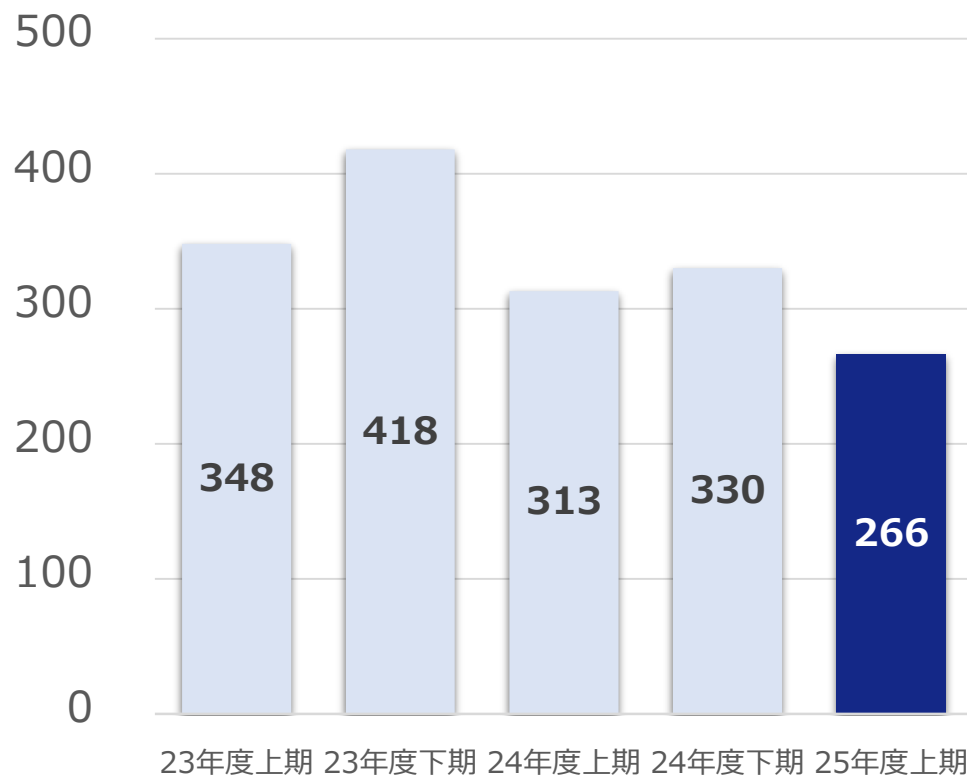
### ■ 全社（共通）

- ・ 事業用地の取得費用
- ・ 東京営業所の改修費用
- ・ 会計等のシステム更新費用

# 研究開発の状況

## 研究開発費推移

単位：百万円



## ● 2025年度上期の主な研究開発の内容

### ■ 住生活関連機器

- ・ 環境対応 新素材研究等
- ・ 金属3Dプリンターを活用した開発試作
- ・ 臨床検査薬の使用期限延長のための要素研究

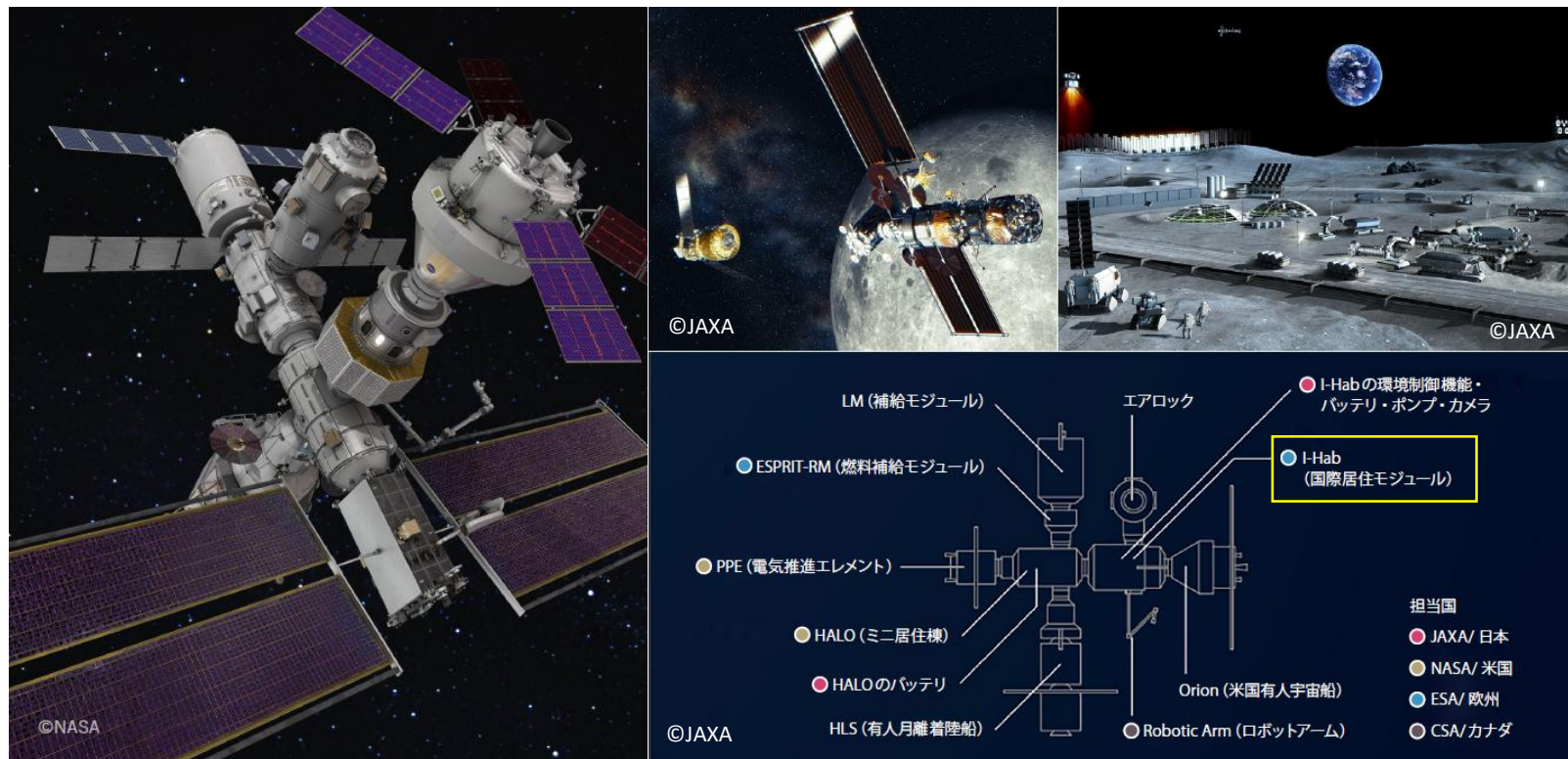
### ■ 検査計測機器

- ・ 高速・高精度対応の画像処理装置開発
- ・ AIによる欠陥分類研究

# トピックス

## 部門名：産業機器部門 (JAXA「月周回有人拠点Gateway (ゲートウェイ) 居住棟」のバルブ開発受託)

「Gateway (ゲートウェイ)」内の国際居住棟 (I-Hab) 向けにJAXA (宇宙航空研究開発機構) が主導する環境制御・生命維持システム (ECLSS) 用のバルブ開発を三菱重工株式会社より受託しました。



国際居住棟「I-Hab」とは、月周回軌道上に構築される月探査の中継基地「Gateway (ゲートウェイ)」の主要な居住モジュールで、宇宙飛行士が生活・活動するための拠点です。今回開発を受託したバルブは、窒素と酸素を用い、居住内の圧力と酸素の分圧を宇宙飛行士が快適に過ごせる範囲内に制御するためのバルブで、宇宙空間という過酷な条件下でも高度な性能が求められます

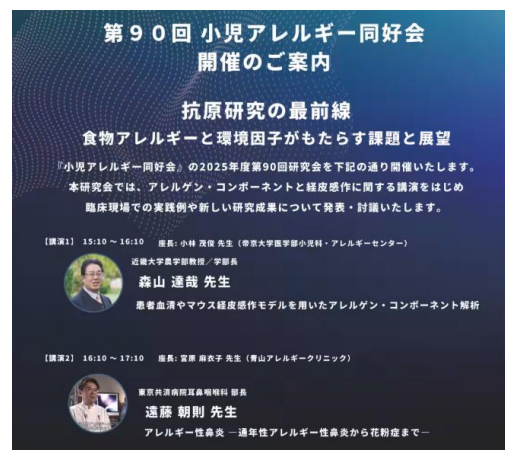


## 部門名：メディカル部門（医療専門部会でセミナー実施）

医療現場での最新知見の共有と医療従事者間の交流促進を目的として、学会でのセミナー開催や専門部会の開催を支援しています。専門医の先生方による講演・ディスカッションを通じて、アレルギー診療を多角的に議論し患者様のQOL向上に寄与することを目指します。

### ◆第49回日本小児皮膚科学会学術大会 ランチョンセミナー開催

2025年7月19日(土) ライトキューブ宇都宮で実施したセミナーでは、山本貴和子先生(国立成育医療センター)、渡邊直人先生(聖隷横浜病院)に約100名の先生方を集め、ご講演いただきました。様々なQ&Aが繰り広げられ、パネルディスカッションのような雰囲気になりました。



### ◆第90回小児アレルギー同好会共催

2025年10月11日(土) ベルサール神田で当社が共催した専門部会は90回目を迎える歴史ある専門部会です。

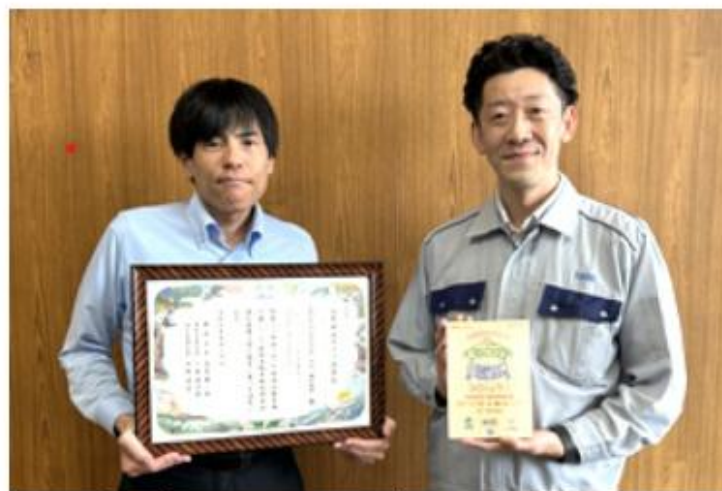
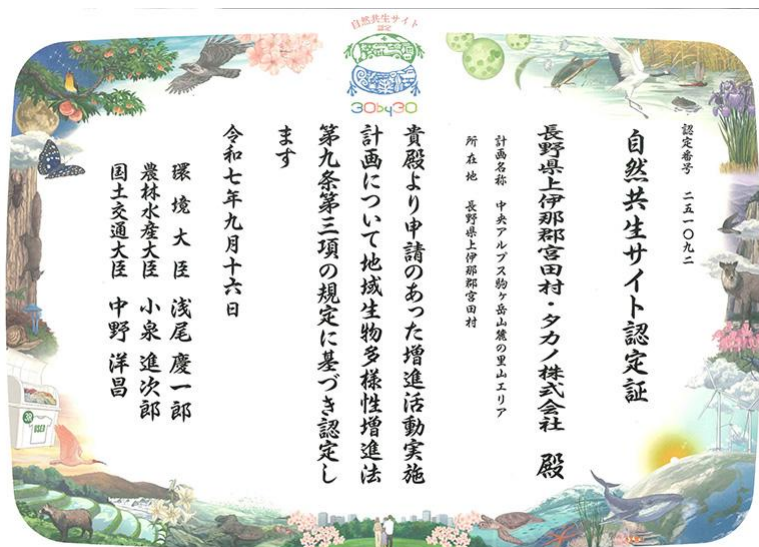
近畿大学・森山達也先生に「アレルギーコンポーネントの解析」を、東京共済病院 遠藤朝則先生に「通年性アレルギーから花粉症まで」をテーマに、様々な観点からアレルギーについて講演をいただきました。

## 部門名：アグリ事業推進室（「自然共生サイト」認定）

### 宮田村とタカノ共同申請「自然共生サイト」認定

2025年4月に施行された地域生物多様性増進法に基づき、長野県宮田村と共同で申請した増進活動実施計画が認定され、【中央アルプス駒ヶ岳山麓の里山エリア】が「自然共生サイト」となりました。今回認定された場所は、タカノが管理するルビーの里駒ヶ岳ガーデンを中心としたエリアです。駒ヶ岳ガーデンでは、カラマツやシラカバに囲まれた赤い花のソバ「高嶺ルビー」が幻想的に咲いています。宮田村が管理する「アサギマダラの里」と併せて生物多様性が評価され、今回の認定に至りました。豊かな自然を次世代につないでいくため、引き続き宮田村と連携した保全活動を進めてまいります。

※自然共生サイトとは、企業や市民、団体、自治体などが所有・管理する土地において、生物多様性の保全が図られていると環境省、農林水産省及び国土交通省に認定された区域のことです。



左：宮田村 天野村長 右：タカノ 鷹野社長



ルビーの里 駒ヶ岳ガーデン



# 2025年度（2026年3月期）第2四半期 検査計測機器 決算説明資料

（2025/4/1～2025/9/30）

取締役部門長 山本 幸康

2025年12月16日(火)

# 2026年3月期 検査計測機器 業績の内容について

(ご注意)

本資料は、検査計測機器の業績及び今後の経営戦略に関する情報の提供を目的としたものです。

本資料で開示されているデータは、発表日現在の判断や入手可能な情報に基づくものです。本資料で述べられている予測や見通しには、不確実な情報が含まれていることをご承知おきください。

# 1. セグメント報告

## 2. タカノ検査計測部門報告

### 1. 事業概況

### 2. 売上受注計画

### 3. 中期事業展開方針

# 1. セグメント報告

## 2. タカノ検査計測部門報告

### 1. 事業概況

### 2. 売上受注計画

### 3. 中期事業展開方針

# セグメント情報

	会社名	沿革	基本情報	事業の内容
加工・組立	<b>タカノ機械株式会社</b> ※連結子会社 	1979年当社治工具・専用機の設計製造部門を分離独立させ設立	事業人員：約50名 拠点：宮田村	・省力化機械の製造販売 ・検査計測装置のメカ機械等の製作
調整・出荷	<b>タカノ株式会社 検査計測部門</b> 	1987年画像処理装置第1号機を完成	事業人員：約250名 国内拠点：全6拠点 ・信州南平工場 ・函館事業所 ・埼玉事業所 ・東京営業所 ・静岡CSセンタ ・大分CSセンタ	半導体や液晶・高機能フィルム用の検査計測装置等の製造販売
保守・改造	<b>台湾鷹野股份有限公司</b> ※連結子会社 	2005年当社100%子会社として設立	事業人員：約15名 拠点：全2拠点 ・台中本社 ・桃園事務所	台湾におけるFPD・半導体向け画像処理検査装置のメンテナンス、アフターサービス、販売活動

## 2026年3月期 第2四半期 セグメント売上高

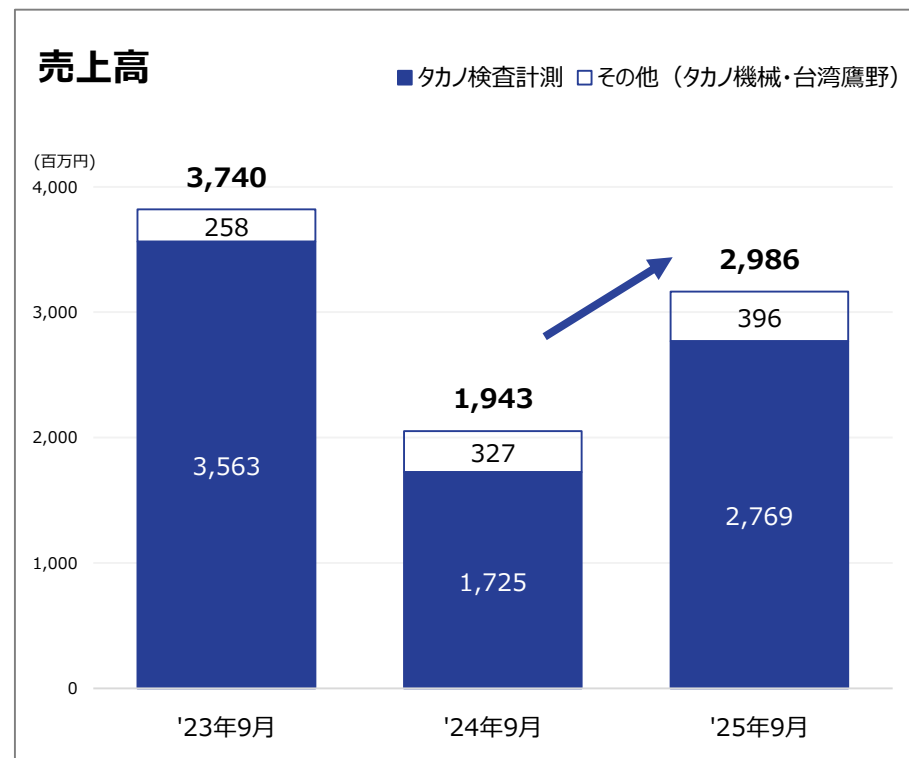
**セグメント売上高は増収（当期は上期下期比較的バランスの取れた販売となる）**  
**半導体向け・FPD(液晶)向け・Film向けそれぞれ前上期比改善**

### 検査計測機器 売上高（百万円）

	前期第2四半期 (2024年4-9月)	当期第2四半期 (2025年4-9月)	増減額	増減率 (%)
タカノ検査計測 ※1	1,725	2,769	1,044	60.5%
その他 ※1 (タカノ機械・台湾鷹野)	327	396	68	20.8%
調整額	△109	△179	—	—
連結セグメント 売上高 ※2	1,943	2,986	1,042	53.7%

※1：タカノ検査計測及びその他の売上高は、セグメント間取引消去前の数値。

※2：連結売上高は、セグメント間取引消去後の数値。



## 2026年3月期 第2四半期 営業損益

### セグメント損益は増益（黒字転換）

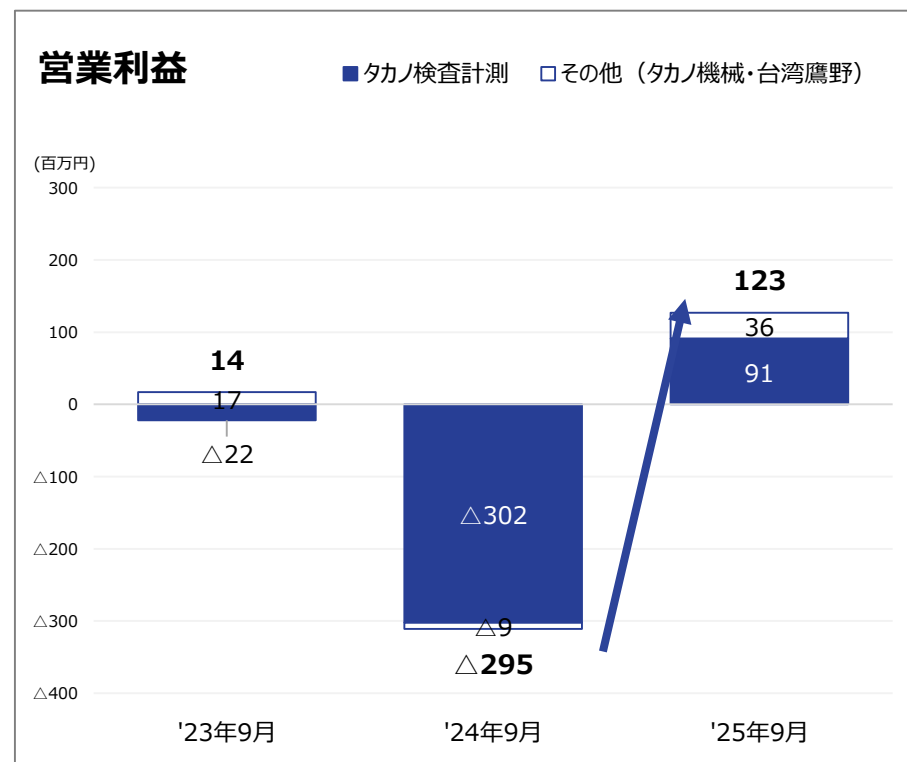
### 案件個別収益性の改善と固定費の圧縮による損益の改善

#### 検査計測機器 営業損益（百万円）

	前期第2四半期 (2024年4-9月)	当期第2四半期 (2025年4-9月)	増減額	増減率 (%)
タカノ検査計測 ※1	△302	91	394	－%
その他 ※1 (タカノ機械・台湾鷹野)	△9	36	46	－%
調整額	16	△4	—	—
連結営業利益 ※2	△295	123	418	－%

※1：タカノ検査計測及びその他の営業利益は、セグメント間取引消去前の数値。

※2：セグメント利益は、セグメント間取引消去後の数値。



## 1. セグメント報告

# 2. タカノ検査計測部門報告

## 1. 事業概況

## 2. 売上受注計画

## 3. 中期事業展開方針



# 事業紹介

## 半導体・電子デバイス事業 (以下「半導体事業」という)

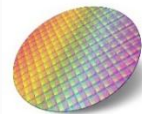
ウエーハの異物や欠陥を高速、高精度に検出できる半導体検査装置

- Vi** — ウエーハの配線パターンやクラック、異物混入などの製品外観を高速、高精度に検査
- WM** — ベアウエーハ表面のパーティクルを高感度に検出
- ALTAX** — ウエーハやBGAなどのパッケージ基板上に形成されたバンプの高さ、径、コプラナティを高速かつ高精度に測定

CIS



ウエーハ



WMシリーズ



Viシリーズ



ALTAX



※本資料における「半導体事業」は半導体と電子デバイスの合計を意味する。

## フィルム事業

ラインセンサーを用いた光学式のフィルム検査装置

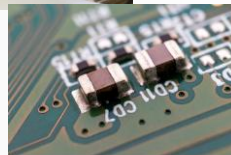
高性能カメラによる高速検査が可能 新規画像処理ユニットを搭載し、高速画像転送とAI欠陥分類により、生産ラインの品質向上を実現する

参入市場：光学フィルム・電子部材・Energy・医療用フィルム

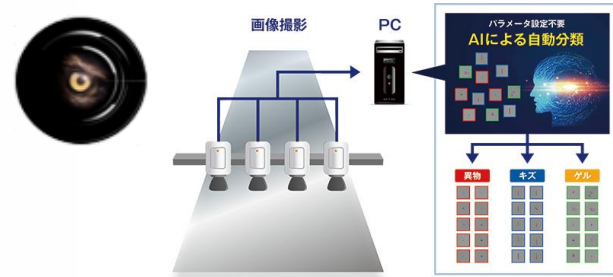
機能性フィルム



電子部材



Hawk eyes (+ TAKANO AI)



## FPD事業 (液晶/フラットパネルディスプレイ事業、以下「FPD事業」という)

色ムラ、欠陥等を高精細に検出できる液晶検査装置

テレビやスマートフォン用の液晶パネル製造工程でパターン付き基板の自動検査・欠陥判定をし、量産の品質工程管理を行う装置

参入市場：LCD(液晶ディスプレイ), OLED(有機ELディスプレイ)



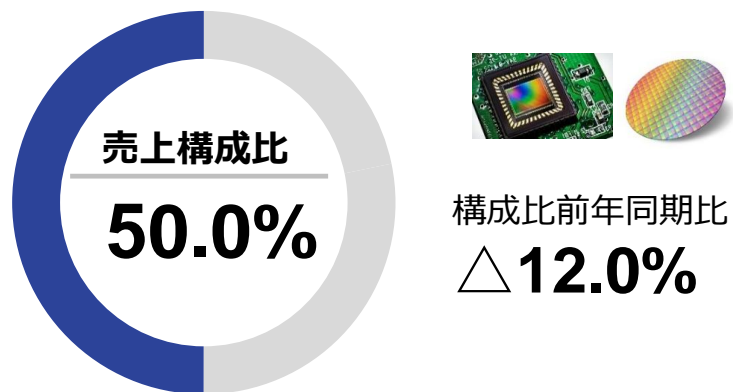
高精細外観検査装置  
(カラーフィルター等)



ムラ検査装置



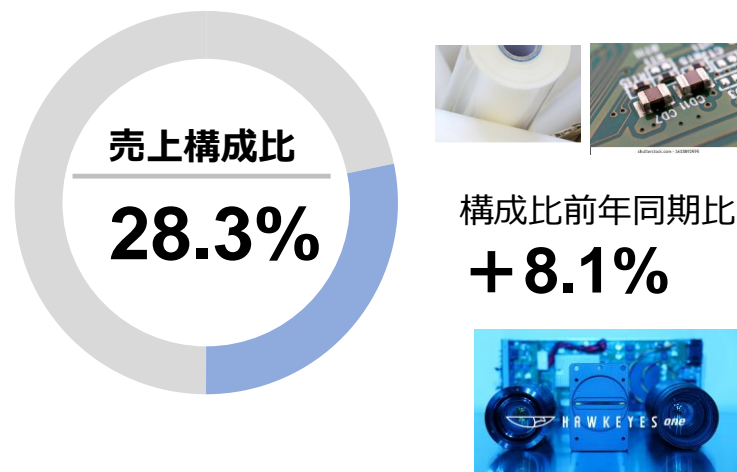
## 半導体事業



ウエーハ・パッケージ基板の異物や欠陥を高速・高精度に検出できる半導体検査装置を提供



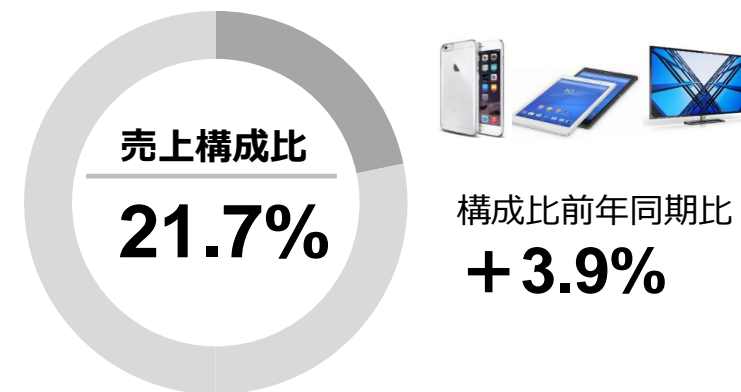
## フィルム事業



ラインセンサーを用いた光学式のフィルム検査装置を提供



## FPD事業

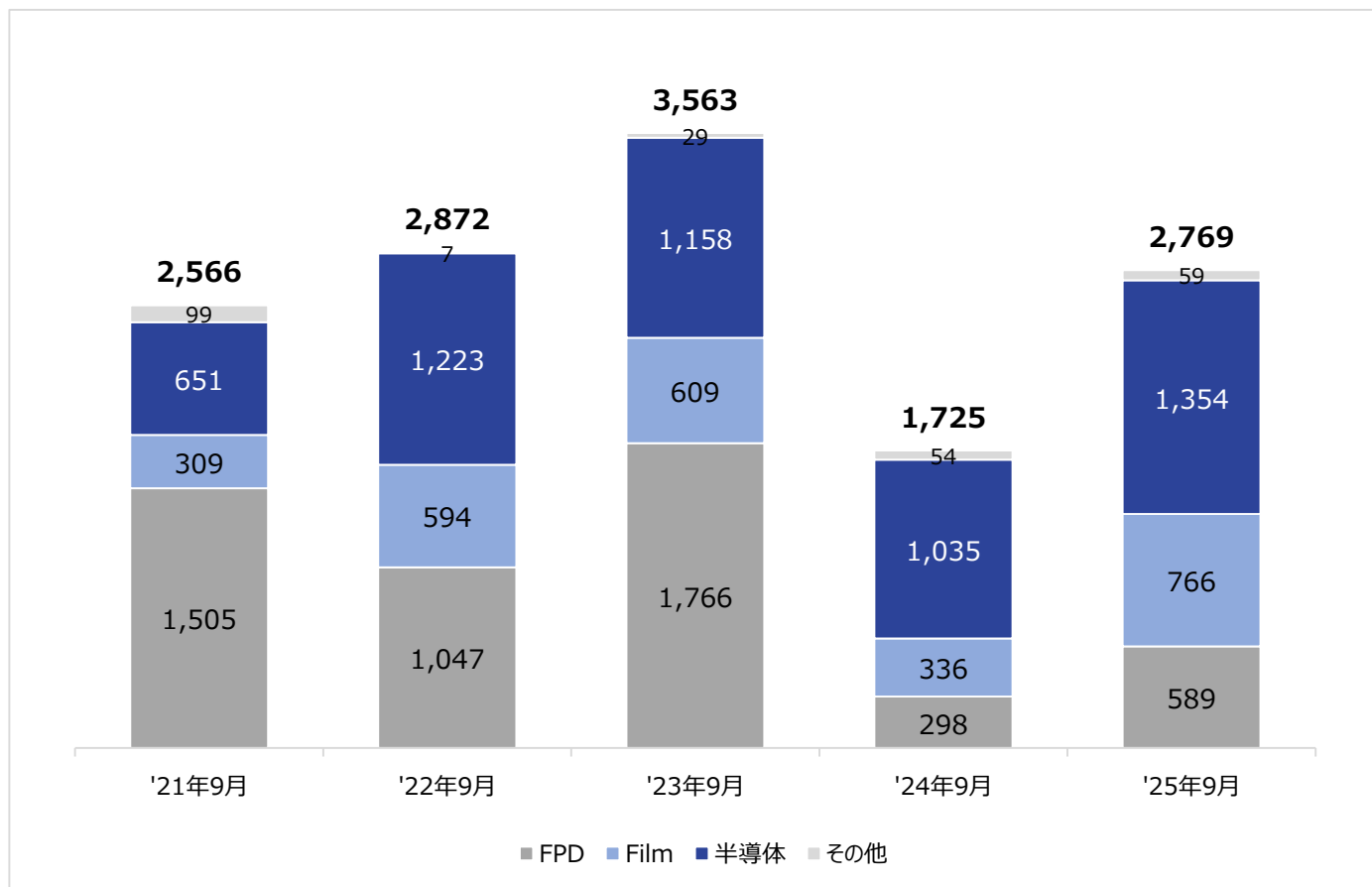


色ムラ、欠陥等を高精細に検出できる液晶検査装置を提供



## 製品別売上高構成推移（実績：2026年3月期 第2四半期）

2026年3月期第2四半期 製品別売上高 推移（百万円）



### 【FPD】

- ・改造・メンテナンス案件が増加

⇒費用コントロールと個別収益性改善をさらに追求

### 【フィルム】

- ・メインユーザー中心に装置納入拡大

- ・上半期としては過去最大レベルの販売

⇒下半期も納入案件多く、納入・製造体制拡充に向け対応中

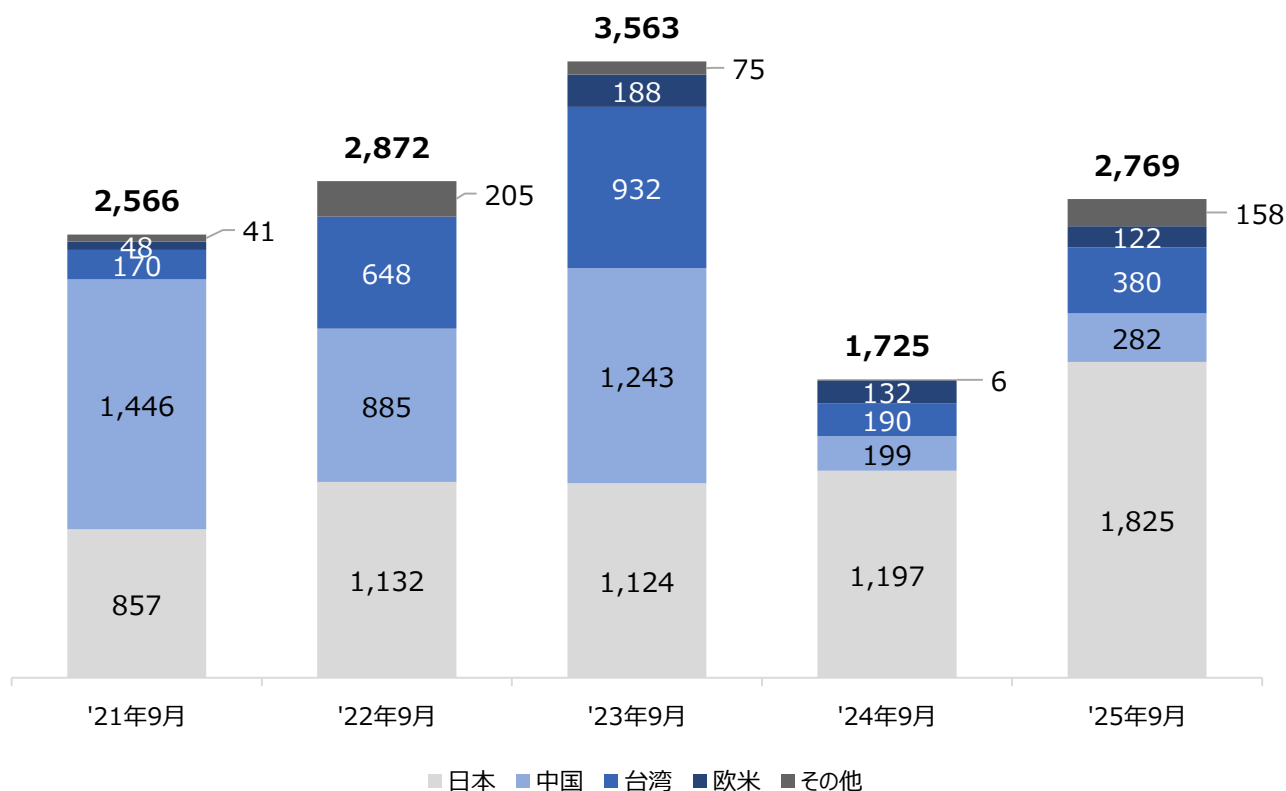
### 【半導体】

- ・パワー半導体向け等は厳しいが、AI向け等の後工程（PKG）向けが拡大

⇒パッケージ基板等向けに開発資源を集中。新製品開発を推進

## 地域別売上高構成推移（実績：2026年3月期 第2四半期）

2026年3月期第2四半期 地域別売上高 推移（百万円）



### 【日本】

半導体後工程（PKG）向け需要は堅調に推移

⇒半導体後工程向け製品販売に注力

### 【中国・台湾】

FPD大規模新規増産投資は厳しいが、  
FPDメンテアフター需要は堅調に推移

⇒FPDメンテアフター需要の取り込み

⇒アジア圏へのWMシリーズ販売展開を加速

### 【欧米】

化合物半導体不調と関税問題により一部  
ユーザーが投資躊躇中

⇒代理店と協働し拡販を継続推進

## 半導体シフト(構造改革)を継続実行中



- ①会計面 ： FPD事業の経費統制とミニマムオペレーション体制の構築継続実行  
メインFab南平工場の収益性改善に目途
- ②組織面 ： 事業別組織編制により、事業ごとの損益改善策を立案・実施  
FPD事業から半導体事業への人員シフトを加速
- ③人財面 ： 開発体制の強化に向け中途人財の採用推進継続
- ④設備面 ： 手狭となっている半導体事業メイン拠点の埼玉事業所の移転検討
- ⑤開発面 ： 各事業ごとに開発ロードマップ再検証、テーマを絞り、重点開発実施

## 1. セグメント報告

# 2. タカノ検査計測部門報告

## 1. 事業概況

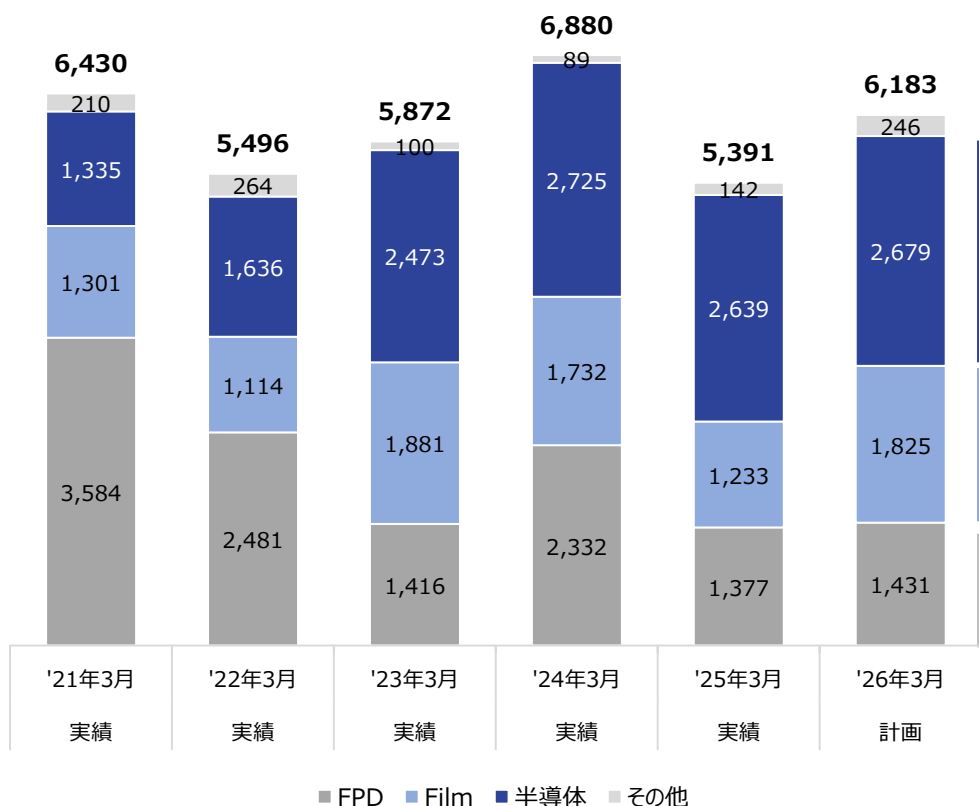
## 2. 売上受注計画

## 3. 中期事業展開方針

## 部門売上計画（計画：2026年3月期）

### 半導体事業拡大を進める（半導体市況全般は回復傾向、中長期を見据えて推進）

2026年3月期 売上高 推移・計画（百万円）



#### 半導体

- － WMシリーズ次世代製品開発に注力
- － 中間工程・後工程実装高度化（先端パッケージ含む）をターゲットに新製品開発
- － グローバル営業体制強化（欧米・アジア同時展開）
- － 半導体事業へ資源集中振向け（人員・拠点資産）

#### フィルム

- － ターゲット市場向け標準モデルの開発と拡販
- － 無地フィルム→パターン付フィルム分野製品の開発

#### FPD

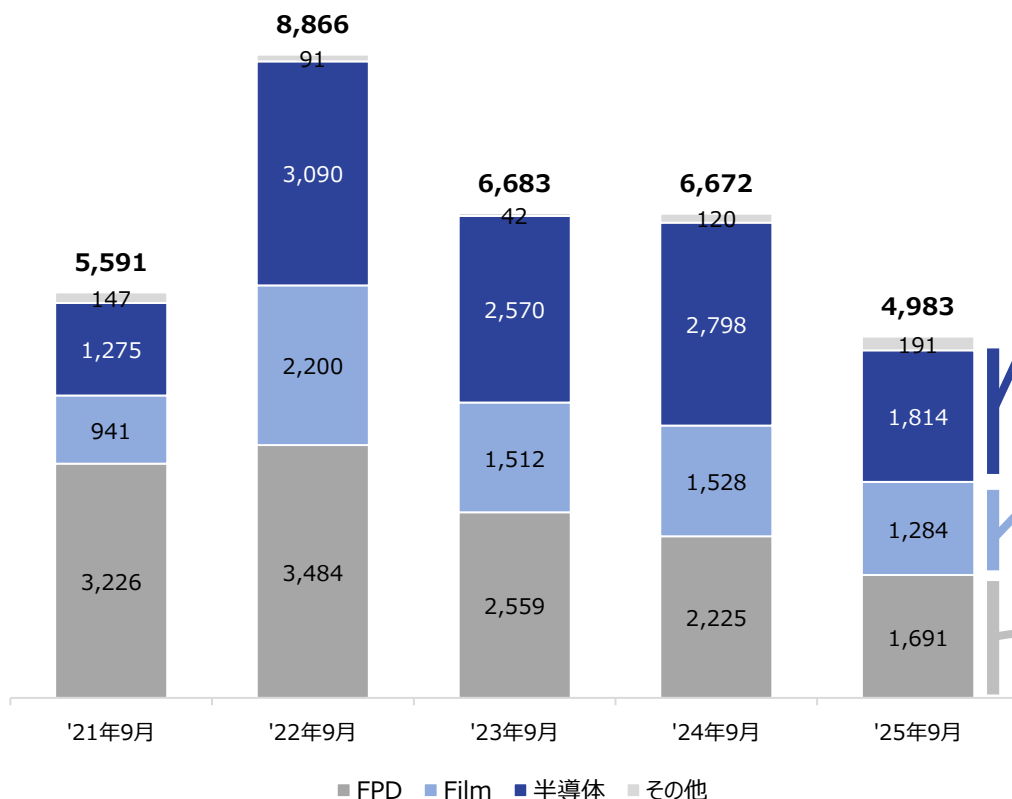
- － 半導体事業への人的資源・資産のシフト
- － メンテ・アフターサービス・改造需要の掘り起こし
- － 案件個別収益性の改善



## 部門受注残高（実績：2026年3月期 第2四半期）

足元は厳しいが、積極的な受注活動を継続する（FPDの減少により受注残滞留減少）

2026年3月期第2四半期 受注残高 推移（百万円）



### 半導体

#### ★ 非先端分野(WM等)の営業取組強化

- － パワー半導体関連投資は、足元一服も中長期的成長を期待（WM・Vi等）
- － AIサーバ向けパッケージ基板検査のニーズは旺盛  
ガラスコア等次世代PKG向け一部案件受注

### フィルム

#### ★ 受注残高は前年同期比減少も受注前引き合いは多い

- － 国内は底堅く、電子部品関連の引き合いは活発
- － パターンフィルム検査等新規引合テーマ旺盛

### FPD

#### ★ 過去受注の大口案件売上計上による受注残高の減少

- － 大型の新規装置投資はあまり見込めない状況
- － 既設ラインの統廃合が進む、移設や改造需要あり



## 1. セグメント報告

## 2. タカノ検査計測部門報告




### 1. 事業概況

### 2. 売上受注計画

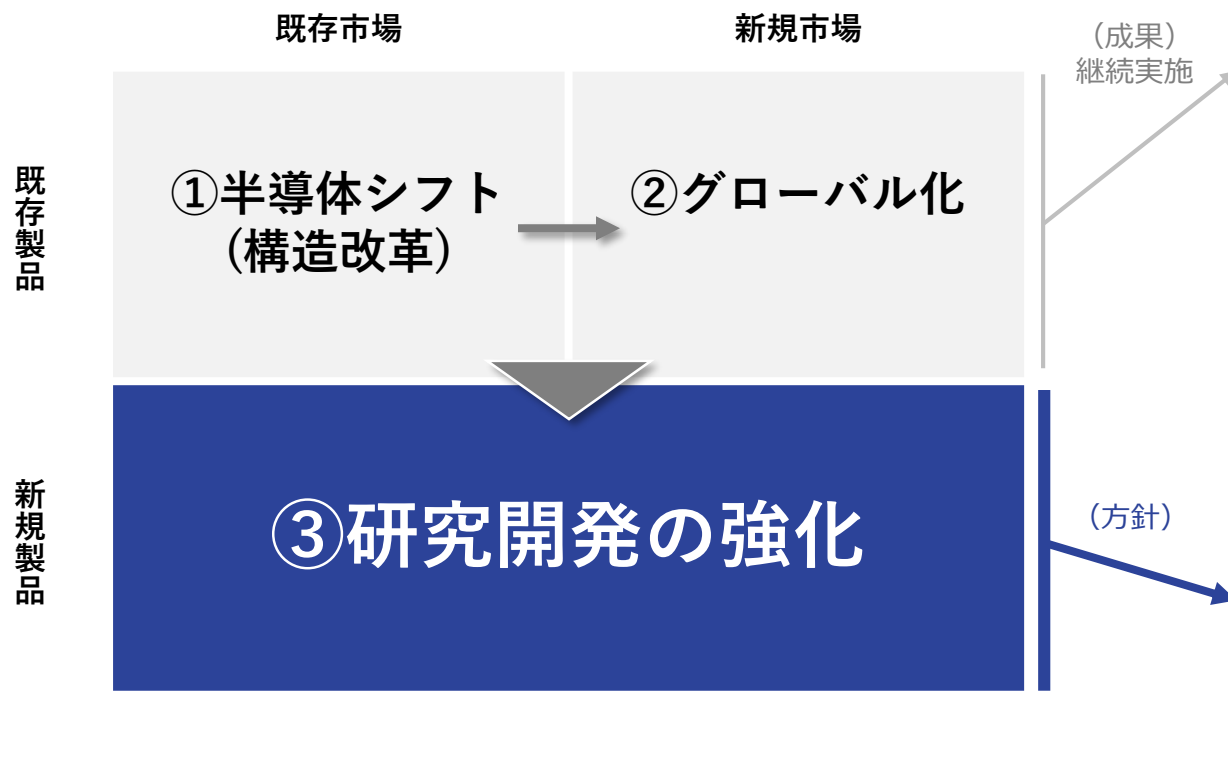
### 3. 中期事業展開方針

市況全般は改善の兆し。

特に **A I 半導体関係市場** に対しては引き続き**ポジティブ**な認識

事業	マーケット状況	補足説明
半導体	 晴時々雲 → 晴時々雲	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 半導体市況全体は<b>データセンター投資等</b>により継続拡大。</li> <li>● 3D実装・チップレット等向け、<b>後工程・先端パッケージ</b>向けに投資拡大</li> <li>● <b>パワー半導体・レガシー半導体</b>は足元厳しいが、<b>中期的な回復は期待あり</b></li> <li>● 技術革新が進む → 新しいプロセス、新しい検査ニーズの発生 積極的な研究開発投資の検討及び実施を行う(グローバルな競争に備える)</li> </ul>
フィルム	 晴時々雲 → 晴	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 半導体実装関係部材の投資は底堅い。</li> <li>● バッテリー関連は、車載向けに長い目で成長が期待される。</li> <li>● 半導体、電子デバイス向け基材メーカー (<b>MLCC等</b>) からの検査ニーズが増加 AIサーバ、車載向けでの底堅い需要</li> </ul>
FPD	 雨時々曇り → 雨時々曇り	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 主要顧客の新規大型投資については慎重な状態が続く</li> <li>● 主要顧客の生産性改善投資 (装置改造・メンテナンス) 意欲はある</li> <li>● 当社納入の<b>既設検査装置の改造需要に機会</b></li> <li>● インドにおけるLCD設備投資についての話題は継続</li> </ul>

今回中計において研究開発を強化し、  
半導体市場における競争/成長力を高める。



### 前回中計：①半導体シフト(構造改革)

- － FPD市場の成熟化(及び市場縮小)
- － 高収益事業である半導体関連事業へのシフト

→ **構造改革は今回中計でも継続**

### 前回中計：②海外市場売上の拡大

- － 米国代理店との契約(半導体事業)
- － 海外展示会への新規出展(米国, 欧州, 東南アジア等)
- － 海外評価デモ環境の整備(台湾など)

### 今回中計：③研究開発の強化

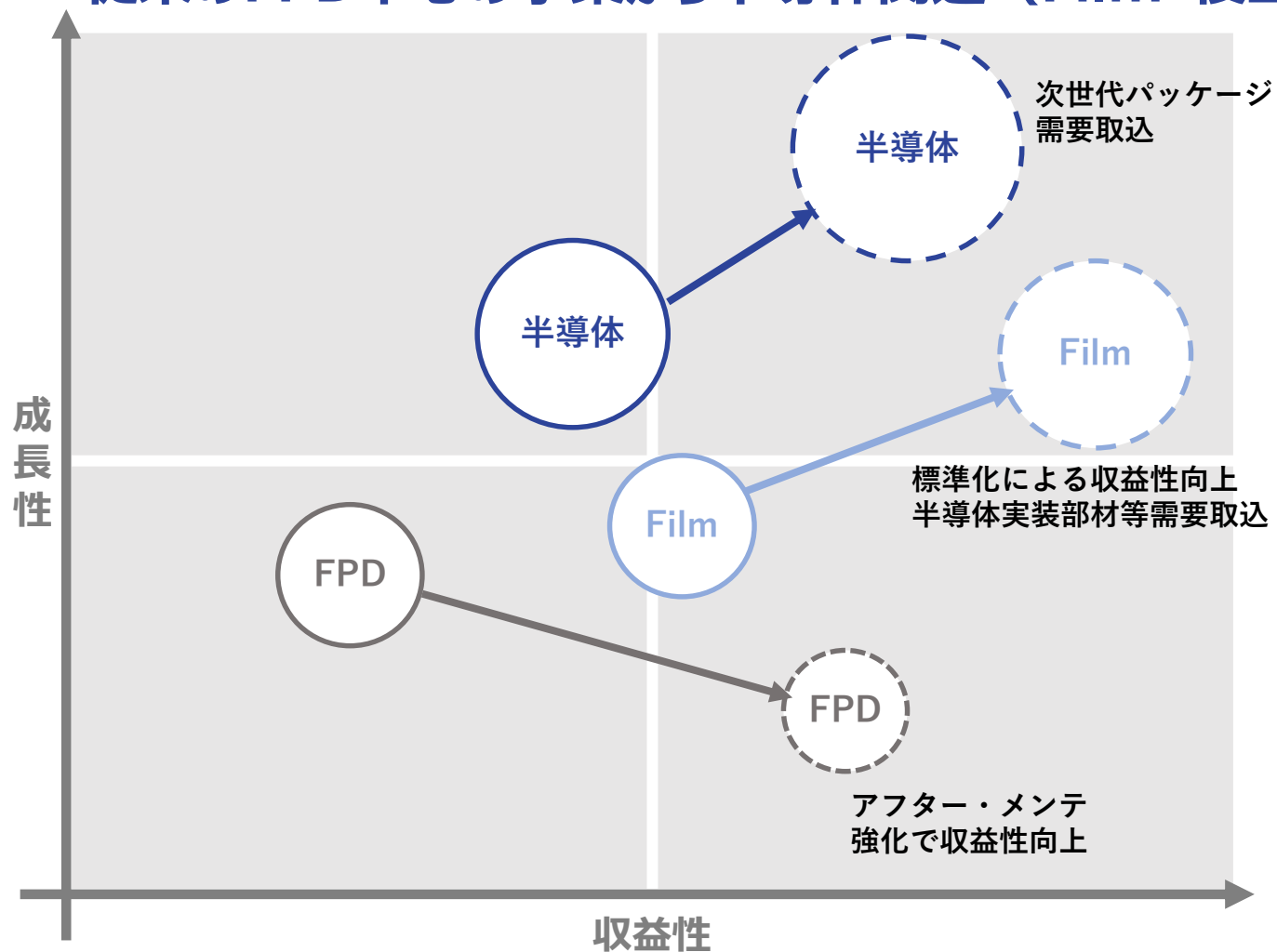
- － 研究開発関連投資を拡大(半導体関連が中心)

研究開発関連費用：**1.5倍**

(前回中計最終年度に対して)

## 部門戦略

### 従来のFPD中心の事業から半導体関連（Film・後工程含む）に事業構造を転換



#### 半導体

- ★WM製品次世代機の開発・継続
- ★AIサーバ向けパッケージ基板検査に注力
- ★パッケージ向け標準化（CD版）装置を開発
- ★3D-Altax + 2Dパターン検査の競争力向上

#### Film

- ★半導体関連部材シート検査に注力
- ★パターン付・異形フィルム分野装置を開発
- ★装置標準化の推進により収益性の向上(海外)
- ★CS体制の拡充とCSの収益化

#### FPD

- ★既設ラインの改造・メンテ需要の継続取込
- ★事業体制の適正化とPKG向けへのシフト
- ★海外子会社機能拡充、海外メンテナンス体制の強化と収益性の向上

## 開発項目－①WMシリーズ

### グローバル市場へのさらなる展開に向け、戦略機開発に注力

#### WM-7系（～200mmウェハ）新商品開発



>新システム入れ替え・新デザイン  
（WM-7SR+）【New】

>次世代機の継続開発

#### WM-10系（300mmウェハ）新商品開発



>新システム入れ替え・新デザイン  
（WM-10R+）【New】

>次世代機の継続開発  
高感度光学系の採用

前工程

Keyword

レガシープロセスから  
アッパープロセスまで

AI活用・シミュレーション  
でユーザビリティ向上

グローバル市場向け戦略機

中古機の枯渇・価格上昇

## 開発項目－②ALTAXシリーズ

ハイエンド・パッケージ市場に向け製品を重点開発

### ALTAX-300EX（ウェハーマイクロバンプ<sup>°</sup>2D/3D検査）



**【New】 SEMICON Japan**  
＞新光学系開発  
＞タクトアップ<sup>°</sup>  
＞パターン検査技術融合

前～後工程

Keyword

マイクロバンプ  
微細接合

ハイブリッド  
ボンディング

積層パッケージ

ガラスコア  
パッケージ

### ALTAX（パッケージ向けバンプ<sup>°</sup>高さ検査）



＞コストダウン改良  
＞ 2D/3D複合機提案

## 【お知らせ】「SEMICON Japan 2025」 出展

### SEMICON Japan 2025 概要

**開催日程：** 2025年12月17日(水)～19日(金)

**開催時間：** 10:00～17:00

**開催場所：** 東京ビッグサイト

**ブース番号：** 西1-2 W1053



※この資料に記載されている業績予想等の将来に関する予測は、当社経営陣が現時点で入手可能な情報に基づき、判断したものです。

将来に関する予想には様々な潜在的风险や不確定要素が内在されており、実際の業績は種々の要素によりこれらの将来予想とは異なる場合があります。

従いまして、この資料にある将来に関する予想に全面的に依存して投資等の判断を行うことはお差し控えください。



END  
(検査計測機器)

# 補足資料

# 当社およびグループ会社の概要について

○：連結子会社、●：連結子会社（孫会社）

会社名	沿革等		事業の内容
※当社 タカノ株式会社	1953年7月 1997年2月	ばね製造会社として設立 東京証券取引所に上場	オフィス家具、ユニット（ばね）製品、エクステリア製品、画像処理検査装置、電磁アクチュエータ、健康福祉関連機器の製造販売
○(株)ニッコー [機械・工具]	1968年3月	グループ内の工具機械等の仕入をする商社機能として設立	工具、器具、機械、エクステリア製品の仕入販売
○タカノ機械(株) [検査計測機器]	1979年9月	当社治工具・専用機の設計製造部門を分離独立させ設立	省力化機械の製造販売 検査計測装置のメカ機械等の製作
○台湾鷹野股份有限公司 [検査計測機器]	2005年2月 2005年4月	当社100%子会社として設立 営業開始	台湾におけるFPD向け画像処理検査装置のメンテナンス、アフターサービス、販売活動
○上海鷹野商貿有限公司 [住生活関連機器]	2010年1月 2013年12月	当社100%子会社として設立 資本金を50万米ドルに増資	オフィス家具他、各種製品の仕入販売（当社各部門の中国市場向けの製品の販売活動等、中国からの部材仕入活動等を行う目的で設立）
○香港鷹野国際有限公司 [産業機器]	2011年8月 2012年4月	当社100%子会社として設立 営業本格開始	産業機器（電磁アクチュエータ）製品、検査計測機器製品およびそれぞれの製品にかかる部品等の仕入・販売（輸出入）
○Takano of America Inc. [産業機器]	2019年8月 2020年4月	当社100%子会社として設立 営業本格開始	産業機器（電磁アクチュエータ）製品の仕入販売
○(株)ユーキ・トレーディング [住生活関連機器]	1989年6月 2023年3月	会社設立 株式を100%取得し連結子会社化	福祉用具・健康用品の輸出入および国内販売
●鷹野電子(深圳)有限公司 [産業機器]	2023年9月 2023年10月	香港鷹野国際有限公司の100%子会社として設立 営業本格開始	産業機器（電磁アクチュエータ）製品および部品等の仕入・販売（輸出入）

# 経常損益・親会社株主に帰属する当期純損益の推移

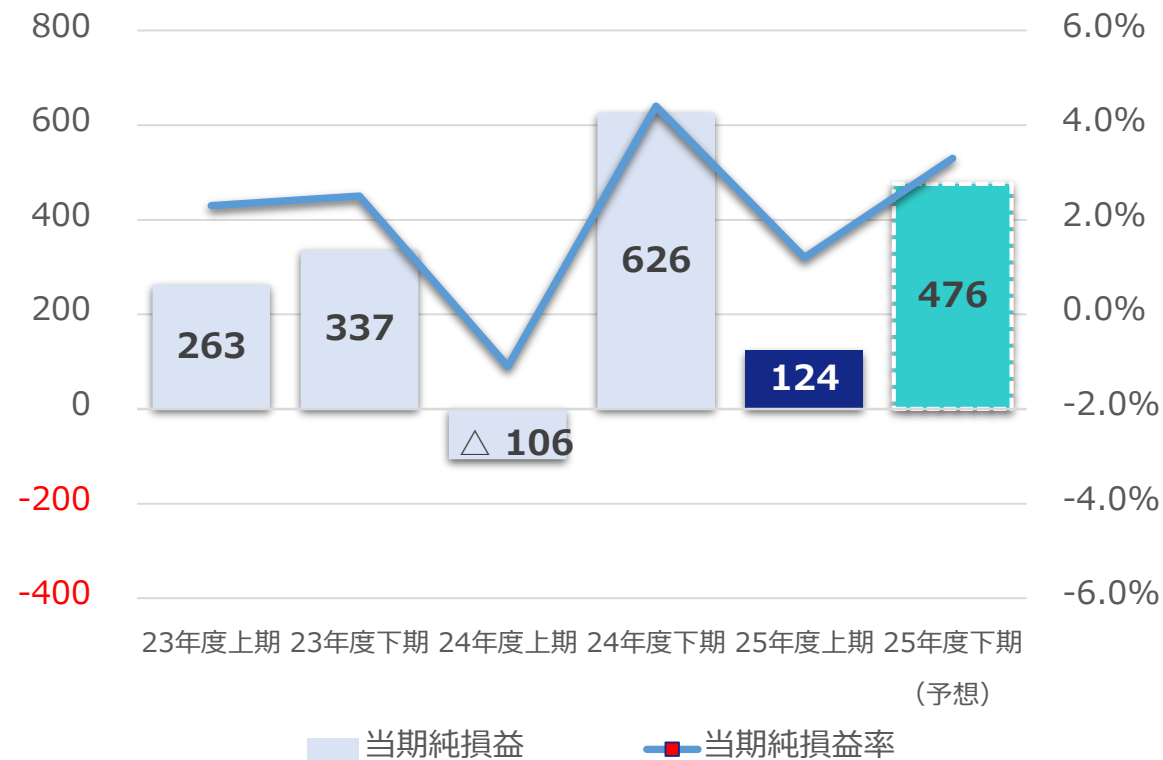
経常損益/率

単位：百万円



親会社株主に帰属する当期純損益/率

単位：百万円

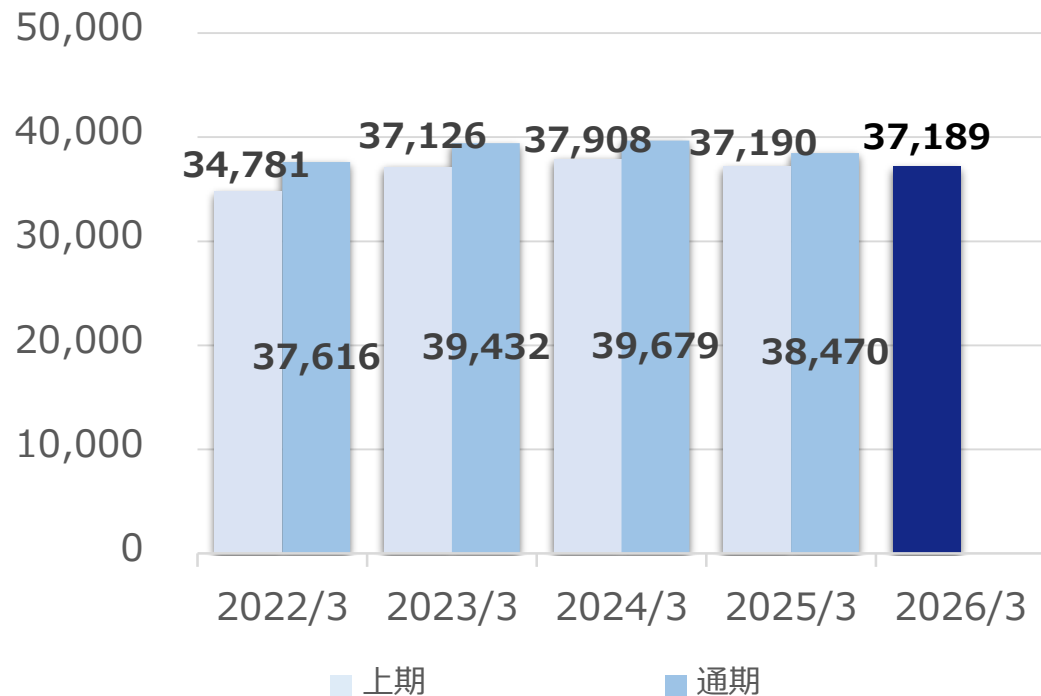


● 2025年度上期の1株当たり中間純利益：8円17銭

## 総資産・純資産推移

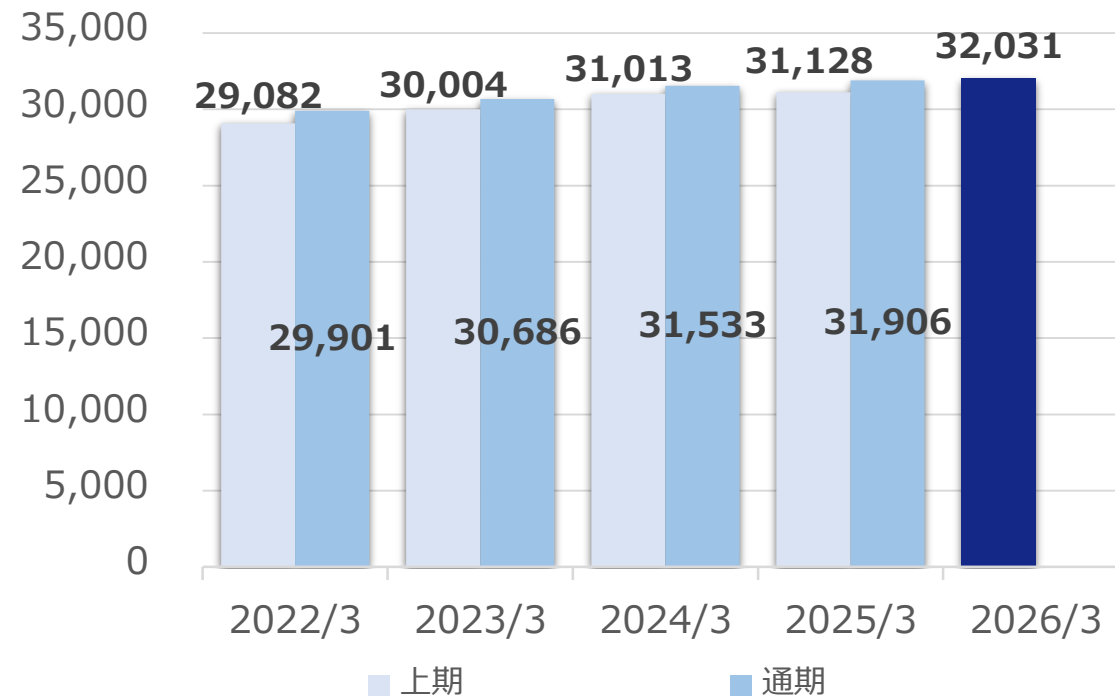
総資産

単位：百万円



純資産

単位：百万円



● 2025年9月末の自己資本比率 86.1%

● 1株当たり純資産 2,104円35銭

## 2025年度 第2四半期キャッシュ・フロー計算書

	2024年度上期実績 (百万円)	2025年度上期実績 (百万円)	前年比増減 (百万円)
営業活動によるCF	1,632	2,322	690
投資活動によるCF	36	△1,001	△1,037
財務活動によるCF	△365	△355	10
現金等換算差額	56	△29	△86
現金等の増減額	1,359	936	△422
現金等期首残高	8,469	8,596	127
現金等中間期末残高	9,829	9,533	△295